

東八田分団が府消防操法大会へ

市消防団東八田分団（荒井和広分団長）が今月25日、丹波自然運動公園（船井郡京丹波町）で開催される、第29回京都府消防操法大会の小型ポンプ操法の部に出場します。7月12日、梅迫町の八田中学校で大会に向けた訓練をスタート。岩本正信副市長や消防関係者、地元住民などが出場選手らを激励し、荒井分団長が「14人の要員が一丸となり、市の代表として恥じない操法で上位を目指す」と力強く決意表明しました。

同分団は3月から基礎体力づくりや自主訓練を続けてきました。当日は府内市町村の代表チームと、消防ポンプ操作の速さや正確性等を競います。温かいご声援をお願いします。



図書館「なつのつどい」人形劇に歓声

市は7月20日、青野町の市図書館で「なつのつどい」を開催しました。人形劇には、多くの親子連れが参加。人形劇「だるまちゃんてんぐちゃん」のほか、大型絵本の読み聞かせやエプロンシアター、腹話術、手遊びなどを楽しみました。子どもたちは、一緒に歌ったり笑ったりしながら、人形のコミカルな動きと演技に見入っていました。

また当日は、ペットボトルを鳥かごに見立てた工作教室も実施。カラフルなテープを使ったペットボトルの飾りつけや、紙の鳥の作成など、自分だけのオリジナル作品作りに励みました。

伝統文化の体験フェアを初開催

市と市文化協会、府中丹文化事業団は7月21日、里町の中央公民館で「伝統文化の体験フェア」を開催。子どもたちに伝統文化に触れてもらい、さらなる文化振興を図ろうと、本年度初めて実施しました。

当日は市内外の小中学生やその保護者が▽茶道▽キーハープ（大正琴）▽将棋▽浴衣の着付け▽習字を体験。子どもたちは、キーハープで流行の曲を弾いたり、将棋の駒の動かし方を基礎から習ったりして、伝統文化を満喫していました。着付けに参加した中筋小4年の本田理紗さんは「自分で浴衣を着られるようになりたいと参加しました。少し難しかったけど、家でも練習したい」と意欲を見せていました。



大塚製薬と包括連携協定を締結

市は7月23日、大塚製薬と包括連携協定を締結しました。協定の内容は▽市民の健康維持・増進と熱中症対策▽スポーツ振興▽災害時の応援協力—など。市役所で行った締結式で山崎市長は「災害時等の連携を心強く思う。市民の健康寿命延伸に共に取り組んでいきたい」と話しました。今後は連携して、熱中症対策を行うアンバサダー養成講座の開催や、災害対応型自動販売機の設置などに取り組みます。



市民プールがリニューアルオープン!

市は7月20日、大島町の市民プールのリニューアル式典を開催し、完成を祝いました。



この日は、プールの指定管理者である水夢（山本雄史社長）が行ったイベントに約170人が訪れました。多くの子どもらが、ヨーヨー釣りやスーパーボールすくい、浮島の上での手押し相撲など、多彩な催しを満喫しました。

小学生があやべ踊りを体験

「あやべ踊り」講習会（綾部公民館主催）が7月12日、上野町の綾部小学校体育館で開催。同校4年生約80人が、あやべ踊り保存会（安藤和明会長）の会員10人から「あやべ踊り」を学びました。

児童らは、会員の動きを手本に、踊りを実践。太鼓の響きに合わせ「トコヤシトコヤシトコヤシトコセー」と掛け声を上げながら、熱心に踊っていました。



透明ディスプレイでコミュニケーションを支援



市は8月1日、窓口での会話を文字化して表示する透明ディスプレイの運用を開始しました。耳の聞こえにくい人や外国人とのコミュニケーションを支援するために導入したもので、障害者支援課と市民・国保課の窓口を設置しています。

これまででは、タブレット端末に文字化した会話を表示していましたが、ディスプレイ越しに相手の表情や手振りなどを確認できるようになり、対話のしやすさが向上。筆談や音声聞き取りやすくする装置などと組み合わせ、より来庁しやすい環境を整えます。



地域防災の一役担う

小学生防災士が活躍



9月1日は「防災の日」。いざというときに身を守れるよう、防災を自分ごととして考え、地域で備えることが大切です。今回の情報すぐらんぶるは、全国でも珍しい小学生防災士として、防災に関する情報を発信する松本龍心翔君(11歳、物部町)を紹介します。

きっかけは台風7号災害

日本防災士機構が認証する民間資格「防災士」。防災の知識や技能を持ち、地域社会の防災力向上を担う存在です。松本君は昨年11月、府内最年少(当時10歳)で試験に合格し、本年1月に防災士に認定されました。

幼い頃から消防、警察、自衛隊のファン。動画投稿サイト「ユーチューブ」で防災関連動画を視聴していたときに防災士のことを知り、興味を持ったといいます。防

「周りの人を助けられるように」

災士の試験に挑戦するきっかけは、昨年8月に発生した台風7号災害。下市自治会の被災を目の当たりにし「周りの人を助けられるように」と勉強に励みました。

親子で防災新聞を発行

防災士としての最初の活動は、4月に行われた地元・上市自治会の防災訓練。自ら講師となり、地域の危険箇所の解説、消火器や段ボールベッド体験、防災リュックの披露などを行いました。7月には、地元住民に向けた「防災新聞」



手作りの「防災新聞」を手にする松本君。8月号の紙面には「黒い雲や風が冷たくなったら、早めに建物内に避難を」「熱中症に気を付けて」などのメッセージが記されている



防災のワークショップなどにも積極的に参加(手前左)。隣は母の真紀子さん

の発行を開始。同時に防災士の試験に合格した母・真紀子さんとパソコンを使って制作し、本紙「ねっと」に挟み込んで上市自治会の住民に届けています。今後は「水害への備えも呼び掛けていきたい」と意気込みます。

FMいかるアマチュア無線クラブの会員に勧められ、先月、第4級アマチュア無線技士の資格を取得。市消防本部が運営する「少年少女消防クラブ」にも加入し、火災予防の知識の習得に努めています。11月には、市職員を講師に招き防災講座を開催する計画。学んだ知識を家族や地域の防災に生かし、災害時に助け合える環境をつくる。これからも、地域防災のリーダーとして活動を続けます。

「綾部発情報すぐらんぶる」は、綾部市の施策・制度・イベント・名所・活躍する個人や団体…など、綾部のホットな市政情報や旬の話題を幅広くお届けします。